

②三菱みなとみらい技術館
科学技術を肌で体感できる場所です。子どもだけでなく、大人も発電の仕組み、乗り物の操縦について楽しく学べます。また子どもを教えることに興味がある人は体験教室でボランティアもできます。



③横浜人形の家
地域色豊かな人形や人間国宝の手による貴重な人形まで、100国以上のドールたちと出会える場所です！世界各国の民族人形や日本全国の郷土人形が壁いっぱい立ち並ぶ様はまさに圧巻！自分の地元にはどんな伝統人形があるのか、ここに会いに行ってみませんか？

みなとみらい周辺紹介のガイド作成に向けて
私たちは、半期の長い時間をかけて、新人生に向けたみなとみらい周辺紹介のガイド作成を進めてきました。作成していく中で難しかったことは、決められた用紙の大きさと文字数でどれだけ魅力的な情報が伝えられるか、ということでした。また、私たちは今回のキーワードである「出会い」というものを大事にし、紹介する場所選びをしたことや、実際に現地にも見学に行きました。実際に足を運んだことにより、簡単に実感のこもった楽しいような情報を共有することができました。

最後に、私たちからのメッセージです。横浜周辺にはこのような魅力的なスポットがたくさんあります。ぜひ一度は訪れてみてはいかがでしょうか。そして新人

生のみなさん、ご入学おめでとうございませう！楽しく充実した大学生活を送ってください！

（ガイド作成有志：外国語学部 小林萌恵、人間科学部 4年 宮地佳奈子、3年 茂木明日美、河合佳織、戸本優、岩崎将也、山本真子）

「社会教育実習」の報告

社会教育課程履修学生の有志

■地元の魚を食べながら学ぶ取り組み

私は新潟市の北区にある北地区公民館で10日間の実習を行った。私は新潟市北区が地元である。私は将来新潟に戻って仕事をしたいと思っているので、新潟市の現状を知るために北地区公民館で実習を行った。公民館では、様々な事業に関わった。その中でも特に、イトフィッシュプロジェクトが心に残っている。

このプロジェクトでは、新潟市の魚の流通や魚の食べ方を実際に食べながら学んでいくというプロジェクトである。これらはおさかなマイスターという称号を持つ方から教えていただいた。小学生を対象にしたプロジェクトだったが、大人も知らないことがいくつも

あったので大人を対象にしても面白いのではないかと感じた。参加してくれた子どもたちも楽しそうに参加していた。子どもたちの中には、魚が大好きで魚の名前をズバズバ答える子どもがいたので講師の方々も驚いていた。私はこのようなプロジェクトで、子どもたち同士・大人と子ども同士で接する機会が増えるので子どもたちの個性も知ることがいいことだと思う。

このように事業では子どもたちや講師の方々などの様々な立場の意見を聞くことができた。何かを通じて様々な人と話すことは貴重な体験になるだろう。

（社会教育課程：人間科学部人間科学科2年 板垣颯太）

■24時間バスの熊本県阿蘇への旅

私が社会教育実習として、熊本県阿蘇市にある「国立阿蘇青少年交流の家」で10日間（2018年8月4日～13日）の実習を行った。阿蘇は、空気がきれいで、周りに大きい建物がない。空が広く、遠くにはつきりと阿蘇山が見える美しい場所だ。それが分かったのは、横浜の自宅を出て、バスを乗り継ぎ、きつかり24時間後に阿蘇についたときだった。私が阿蘇を実習先に選んだ理由は、横浜ではできない経験をえるためだ。それは、横浜からバスを乗り継ぎ、阿蘇に向かったこと。阿蘇山を一周する「大草原からの贈り物」で子どもたちとテントで寝食を共にしたこと。阿蘇山を一周したこと。横浜で生まれ育ってきた私にはどれも初めての体験だった。また、実習を通じて子どもと関わることの難しさ、自身の未熟さ、経験することの大切さを学んだことは、今後知らない世界に飛び込む私に自信と覚悟をくれた。こうして成長できたのも周囲の支えがあったからだ。自分の成長も大切だが、しかし、そこに囚われすぎず、出会う人々に感謝する心を忘れずに行動していきたい。

（社会教育課程・人間科学部人間科学科2年 北澤新樹）

■対話力を必要とする公民館活動

私は社会教育実習で地元、相模原市に行きました。地元での学び気持ちは強く相武台公民館にしました。まず私を紹介してくれたのは相模原市役所職員遠藤さんとの出会いがあったからです。これは私が働いているアルバイト先で、私が最初の実習をお願いしたところから断られ、お客さんとして来店した遠藤さんの紹介で開拓することができました。

実際の現場や生の声をきき、私が今まで学んだことや発見にあふれていました。私が見て感じた9日間は、自らを育むうえで貴重なものだった。第一に挨拶することの重要性。これは相武台公民館では、住民のかたとすれ違ふと必ず挨拶するようにした。職員の方も皆さん挨拶されていたのでとても温かい環境だ。幅広い年齢で利用がある場で、コミュニケーションに富んで、小学生や中学生も自宅のように過ごしていた。第二に住民を支える人への気配り。行事も様々な人が集まりそれが見えた。また裏方の大事さも発見し、私が昔参加したイベントにもこういった苦労があることが分かった。特に参考になったのは、グループづくりで人の相性や誰をリーダーにするかなど簡単にわからない。また安全の配慮や細かい点の気配りなど得られるものが多かった。

（社会教育課程 法学部自治行政学科3年 野島拓朗）



相模原市相武台公民館にて職員さんと学生

■国立中央青少年交流の家の「イングリッシュキャンプ」に参加して

私は静岡県御殿場市にある、国立中央青少年交流の家にて合計7日間の社会教育実習を行った。国立中央青少年交流の家では、富士山にある豊かな自然を生かした数々の小学生向けのプログラムが数多く行われており、私は学校外での子どもたちの成長を助ける力をつけたいと思っていたので、この施設での実習を行った。今回、私は「イングリッシュキャンプ」に参加した。米軍キャンプ場の海兵隊員のかたと日本全国の子ども達との交流を通して、日本の子ども達も英語への学習意欲を高めることを目的としたプログラムである。実習では普段とは違った環境で過ごす子どもたちの力になること、人と人をつなげる力を身につけることを目標に実習を取り組んだ。実習を通して子どもが学外で学ぶことの重要性、また今の子ども達も自然とふれあう機会を作ることの重要性を学んだ。また、キャンプを通して子どもたちの成長の早さや興味を持つことに対する吸収の早さを実感した。

私は、今回の実習で多くの人とふれあうことの楽しさや、他人の成長を助けることの楽しさを改めて学んだ。この学びを生かして今後はボランティアなどに参加し、他人の成長を助けつつ、自分自身の様々なスキルアップを行っていきたい。

（社会教育課程・経済学部現代ビジネス学科2年 清水理紗子）



外国人の方々と「あやとり」に挑戦



中央青少年の家の「イングリッシュキャンプ」にて
子どもと共に国際交流